



祝　辞

～とりもどそう　日本的心　そして誇りを～

ライオンズクラブ国際協会334—B地区
ガバナー　L. 松岡 忠男

春たけなわの今日この頃、津ライオンズクラブの皆様めでたく45周年をお迎えになり、おめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

貴クラブは名古屋ホストライオンズクラブのスポンサーにより日本で181番目、地区では11番目と日本のライオンズクラブの黎明期のクラブとして誕生して以来の半世紀は平坦な道ではなかったと思います。高度成長期から第1次2次のオイルショックの景気減速時代そしてバブル時代、バブル崩壊後の景気低迷とまさに山あり谷ありの歴史の中で歴代の役員そして会員の皆様が一致協力し、ライオニズムの昂揚により地域に喜ばれる奉仕、人類愛に満ちた奉仕活動を続けてこられ地域の発展に寄与されましたことに深甚なる敬意を表すものでございます。

ライオンズクラブも発足以来88年を経て成熟期に入っておりますが、反面制度疲労が囁かれマンネリ化が叫ばれております。世界では人口の20%が飢餓に喘ぐ一方で15%が栄養過多に陥り、また17%が安全な水が飲めません。そして人類の欲望は、自らの生きる自然環境をも破壊し未来を危うくしております。

また日本では親子家族の絆の弱まりなど心の荒廃が人間社会の根幹を揺るがせております。このような事態を踏まえ、今年度のスローガンを「とりもどそう　日本的心　そして誇りを」といたしましたが、まさにライオンズクラブの出番だと思います。

津ライオンズクラブの皆様の見識と英知と人類愛、そして郷土愛によって津市がますます発展しユートピアが築かれますよう、そして津ライオンズクラブのご隆盛をご祈念申し上げ祝辞と致します。

津の城下町再現模型を津なぎさまちに寄贈

中部国際空港への高速船アクセス港として開港した「津なぎさまち」のターミナルに「津の城下町再現模型」を寄贈。

横180cm、縦140cm、2,500分の1の縮尺で、江戸時代後期の津城および城下町を再現したもの。模型の背後には現在の津の町の地図に重ねて、当時の城下町が示されている。

津は慶長13(1608)年、初代・藤堂高虎が32万4千石の藩主として移封されて拓かれた城下町です。このことを知る市民は多いが具体的にどんな町であったのかを知ってもらい、よりふるさとに愛着を持っていただけたらと考え、記念事業としたものです。制作に当たっては、津市文化課の学芸員の協力をあおぎ、確実性のある資料を基に正確を期した。

〈クラブ拠出金=3,000,000円〉



スペシャルオリンピックス冬季世界大会に 応援・見学ツアー

2005年2月25・26・27日、知的発達障害者とその保護者30組とともに長野で行われた「スペシャルオリンピックス冬季世界大会」応援・見学バスツアーを催行。

ライオンズクラブ・メンバー、お手伝いのボランティアを含め総勢82名。三重県からスノーシューライニングに出場する山根選手の応援を2日間。雪に遊び、開会式をサテライトスタジオで、Mウェーブでのスケート競技など、そのテーマ「集い、そして楽しもう」をそのままに実践した。同行した障害者とで創るミュージカル劇団「アン・ポン・タン」の皆さんから即席のありがとうのミニ・ミュージカルを演じられたり、心に残るアクティビティーであった。が、表面にでる開会式や資金協賛は華やかであったが、障害者とともに参加をし、応援を行う人の少なさに考えさせられる面も多かった。「ウイ・サーブ」とは何か？課題をいただいた。

〈クラブ拠出金=1,782,089円〉

